

先人の気風を今に受け継ぐ ここは「しぶたみ」

渋民地域づくり計画



平成 28 年 5 月

渋民振興会

# 共に行動し、いつくしみ、住み続けたいふるさとに

渋民振興会

会長 菊池 紘一

この度「先人の気風を今に受け継ぐ ここはしぶたみ」のタイトルの基に渋民地域づくり計画書が出来上がりましたのでお届けいたします。

渋民振興会が中心となり一関市当局およびいちのせき市民活動センターの方々のご指導のもと、地域の皆さんと共に渋民の課題をいろいろ出し合い、その解決策を検討して作成されたものです。

渋民地区の教育の歴史は、江戸時代に芦東山先生が「十賢堂」で子弟の教育に当たったことから始まりました。地域の教育と文化の中核として二千九百有余名の卒業生を送り出した渋民小学校が、140年の幕を閉じました。住民の心のよりどころであり活動と交流の場でもあった「渋民小学校」の建物が、これからどうなっていくのだろうかという地域の人々の思いがあり、自治会長さんたちと検討した結果、「渋民振興会」が平成24年8月に設立されました。小学校の校舎・校庭の活用のあり方をアンケート調査し、集約して市当局へお願いするとともに協議を重ねてまいりました。

翌年は地域の皆さんにこれからもこの地で生活する上でのさまざまな課題等のアンケート調査を実施しました。地元八幡神社例大祭における取り組みについても少子高齢化や時代の変化による課題がでてくるなど振興会の果たす役割が大きくなってきたところです。

併せて一関市地域協働推進計画の方針が打ち出されたことに合わせ、先のアンケートの調査結果を基に「地域づくり計画策定」の取り組みを始めました。それは私たちが生まれ育ったこの地を、これからも活性化させながら住みよい渋民にするにはどうしたら良いか等の課題を中心にワークショップ（参加型会議）を開催し、また中学生によるワークショップを開催するなどしながら、この地域づくり計画書が出来上がりました。

今後はこの計画書をもとに地域づくりけん引役の代表組織として、そして地域と行政のメインパートナーとして活動して参りたいと考えております。

私たち渋民地域づくりの主体は私たち自身であり、皆さんと共に考え、共に行動し「室蓬譲水の里」をいつくしみ住んで良かった、これからも住みたいふるさとを目指していきたいと思っておりますのでなお一層のご協力をお願いいたします。

## 目 次

1. はじめに	
(1) 計画策定の趣旨 .....	1
(2) 計画の期間 .....	1
2. 地域の人口 .....	1
3. 地域が抱える課題	
(1) 少子化、人口減少 .....	4
(2) 高齢化 .....	4
(3) 地域・人との交流減少 .....	4
4. 目指すべき将来像	
(1) 渋民地域の目指すべき将来像 .....	5
(2) 地域を支える三本柱 .....	5
(3) 三本柱の目標 .....	5
(4) 私たちの具体的な取り組み .....	6
① 産業・振興 - 渋民ブランドで活かす笑顔の里 「しぶたみ」 .....	6
② 教育・文化 - 世代をこえて教え伝え学び合う里 「しぶたみ」 .....	8
③ 福祉・安全 - みんなで支え合う潤いの里 「しぶたみ」 .....	10
5. 計画の推進 .....	12
 <資 料>	
○ 計画策定の経過 .....	13
○ アンケート結果 .....	15
○ 中学生ワークショップのまとめ .....	16
○ 渋民振興会会則 .....	19

# 1 はじめに

## (1) 計画策定の趣旨

渋民地域は、江戸時代に仙台藩儒学者として活躍し『無刑録』の著者でもある芦東山先生を輩出し、東に室根山、北に蓬萊山を望む自然環境豊かな地域です。室根・蓬萊のふたつの山々を源とする砂鉄川の支流が譲り合いながら合流する山紫水明の自然を後世に、そしてそれぞれの地域の住民が互いに協調しあってまちづくりをめざすようにと命名された「室蓬譲水の里」大東町。その真ん中に位置し、農業を中心とした産業と恵まれた自然環境に囲まれた地域で、5つの自治会が特色ある活動を展開し、みんなで協力しながら地域づくりに取り組んできました。

しかしながら、近年少子高齢化・人口減少が進み、明治6年に開校された歴史ある渋民小学校が、時代の流れと少子化の影響もあり、平成25年3月地域の人々に惜しまれながら閉校になるなど、地域としての活気が徐々に失われつつあります。

そこで、地域みんなで自分達の住む地域を見つめ直し、みんなと話し合いながら、渋民地域がどのような地域であるべきかを考え、地域の課題に取り組むための指針としてこの計画を策定するものです。

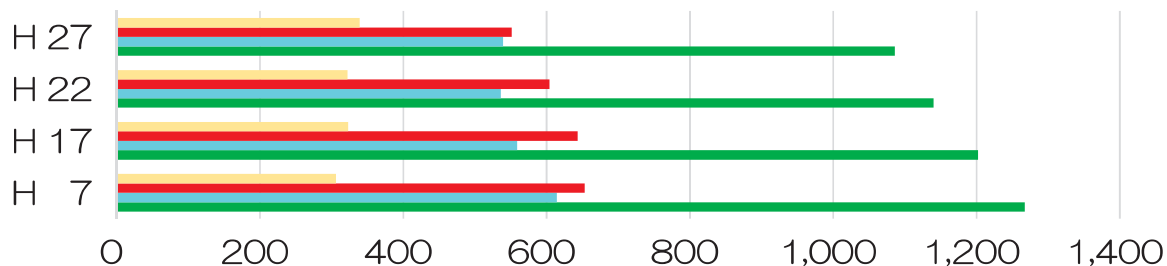
## (2) 計画の期間

この計画はおおむね5年間の計画とします。また、諸情勢の変化に伴い、機会をとらえて随時見直しを行います。

# 2 地域の人口

渋民地域は渋民第8区～渋民第12区の5行政区からなり、平成27年3月31日現在世帯数は339世帯、人口1,086人（高齢化率32.60%）で将来的にも人口の減少傾向が続くことが予想され、少子高齢化も進んでいます。

### 渋民地域人口・世帯数の推移

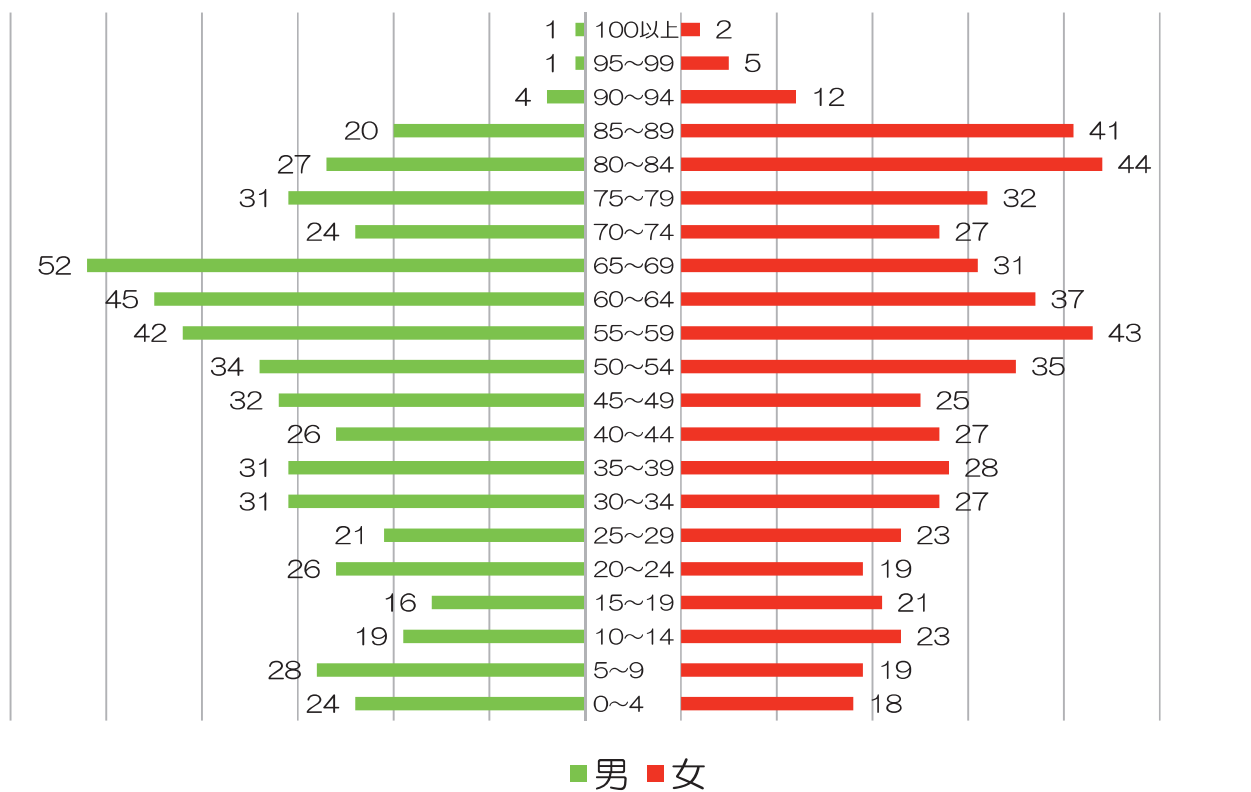


	H7	H17	H22	H27
世帯数	306	323	322	339
女 (人)	653	643	604	551
男 (人)	614	559	536	539
総数 (人)	1,267	1,202	1,140	1,086

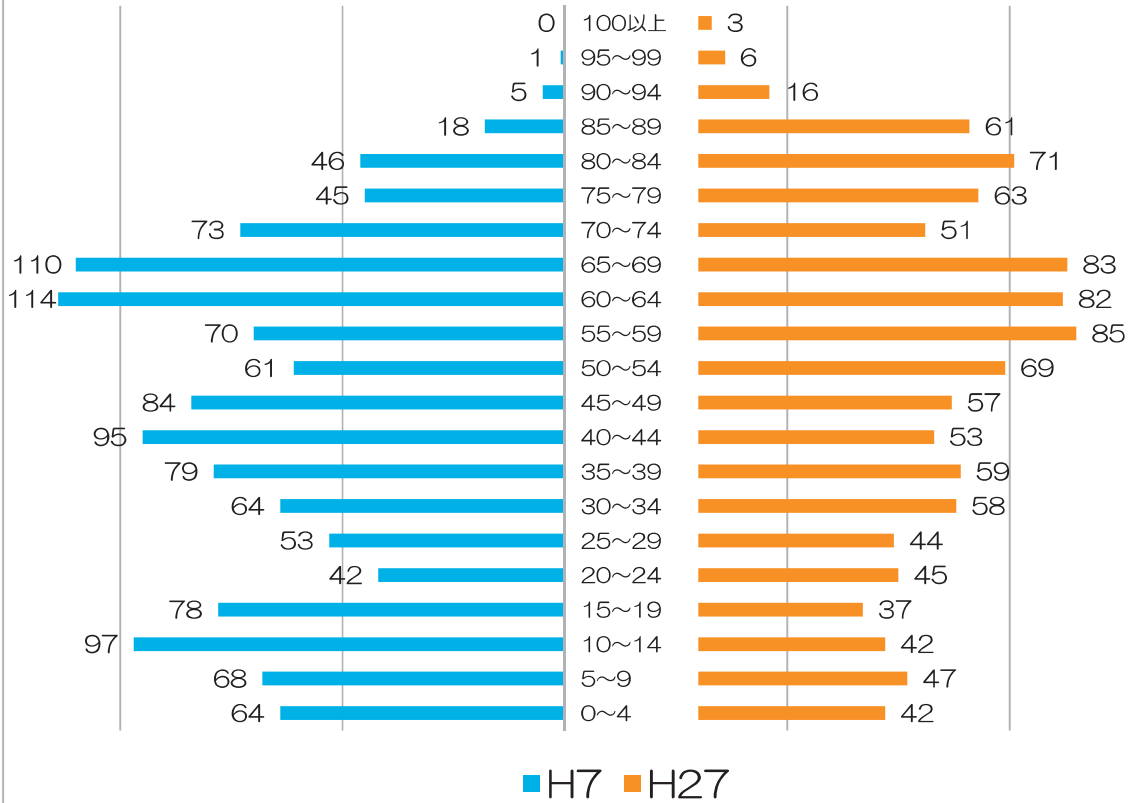
行政区別人口（平成 27 年 3 月 31 日現在）

	8区	9区	10区	11区	12区	合計
世帯数	40	59	84	88	68	339
人口合計（人）	143	190	271	259	223	1,086
55歳以上（人）	70	92	141	107	123	533
10年後の高齢化率	48.95%	48.42%	52.03%	41.31%	55.16%	49.08%
65歳以上（人）	44	59	96	78	77	354
現在の高齢化率	30.77%	31.05%	35.42%	30.12%	34.53%	32.60%
14歳以下（人）	23	19	29	38	22	131
少子率	16.08%	10.00%	10.70%	14.67%	9.87%	12.06%
若年世代（20～44歳）	36	45	67	68	43	259
	25.17%	23.68%	24.72%	26.25%	19.28%	23.85%

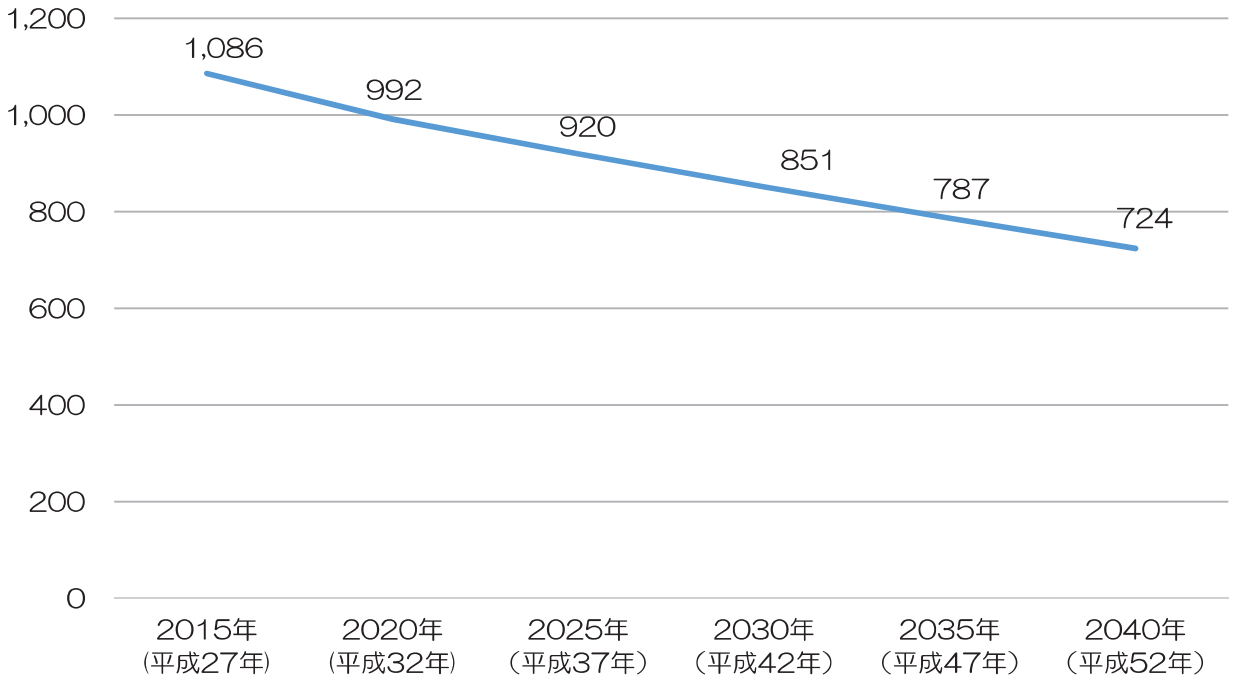
渋民地域人口ピラミッド(H27.3.31現在) 単位：人



渋民地域人口ピラミッド（H7/H27対比） 単位：人



渋民地域の人口予測 単位：人



### 3 地域が抱える課題

#### (1) 少子化、人口減少

渋民地域においては、今まで経験したことのない少子化・人口減少が進んでいます。それにともない行事に参加する子どもの数も減少しています。

働く場が少ないことから若者も流出し、各種行事、協働活動、農地保全等の後継者不足が懸念されます。

#### (2) 高齢化

高齢者のみの世帯や一人暮らしの世帯が増加し、通院、介護、買い物等、地域の支えが必要となってきており、安心して暮らせる新しい方策を構築することが急務となっています。

#### (3) 地域・人との交流減少

今まで各自治会や各種団体において活発な活動が展開されてきたが、人口減少などの影響から役員のなり手がいないなど、世代交代が進まず活動の不活発化が懸念されます。

また、行事・協働活動においても参加者の減少・意識が薄れてきているなど地域・人との交流減少が懸念されます。



(行政区長・自治会長ワークショップ)

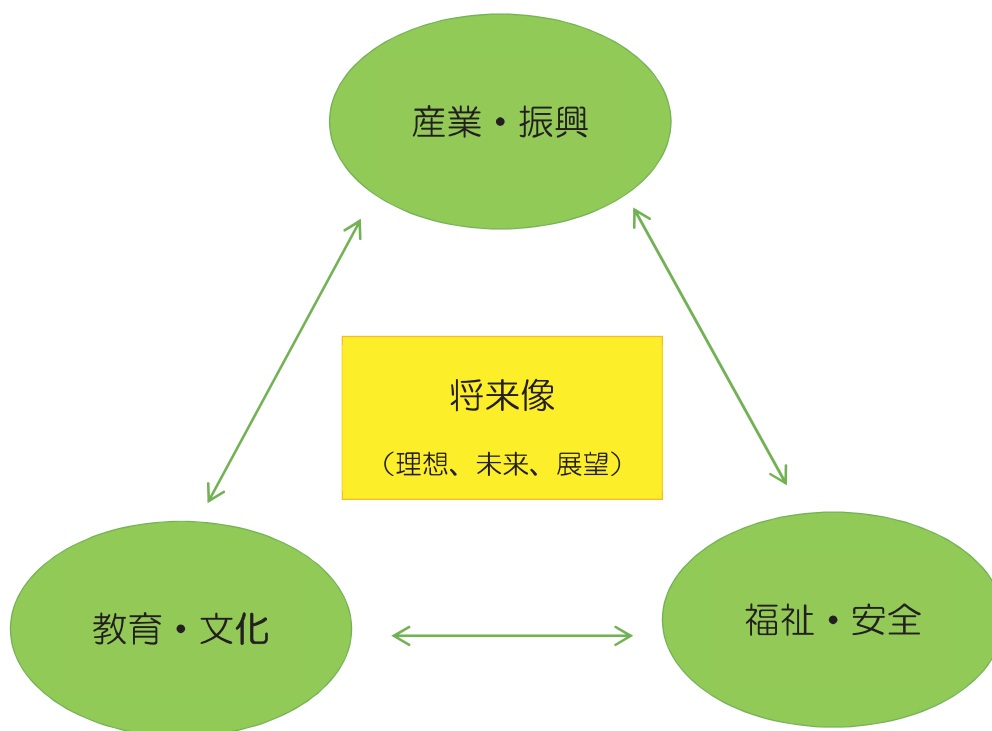
#### 4 目指すべき将来像

(1) 渋民地域の目指すべき将来像を次のとおりとします。

### 先人の気風を今に受け継ぐ ここは「しぶたみ」

(2) 地域を支える三本柱

渋民地域の将来像（理想、未来、展望）を実現するため、アンケート結果（別紙P15 資料参照）などから地域を支える三本柱を設定しました。



(3) 三本柱の目標

具体的な計画にするため、三本柱ごとの目標を設定しました。

- ① **産業・振興** — 渋民ブランドで活かす笑顔の里 「しぶたみ」
- ② **教育・文化** — 世代をこえて教え伝え学び合う里 「しぶたみ」
- ③ **福祉・安全** — みんなで支え合う潤いの里 「しぶたみ」



(4) 私たちの具体的な取り組み

① **産業・振興** — 渋民ブランドで活かす笑顔の里 「しぶたみ」

現状・課題	考えられる解決策とその方向性	実施主体
<p><b>◆担い手・後継者不足による農業の現実</b></p> <p>(ア) 農業従事者の高齢化により農地（山林含む）が荒れ、休耕地・耕作放棄地が増加している。また、専業農家が減少し野菜や果樹の生産量が減少している。</p> <p>(イ) 農業の後継ぎや担い手が不足し所有地の環境管理ができていない。ゆえに、他の公共地まで環境管理の手が届いていない。</p> <p>(ウ) 農業は「大変」というイメージがあり、若い人が農業離れしている。そのため街なかに若者が流出し、地元の人手が不足し農業に活気がない。</p> <p>(エ) 有害鳥獣（ハクビシン等）の増加と帰化植物（セイタカアワダチ草、ウレチウリ等）の増加。</p>	<p><b>◆公的支援と地域間支援の使い分け</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中山間直接支払や多面的機能を含む制度を利用し、人材派遣等に手当を支払い、農地等の管理をお願いする。もしくは、地域全体で改善を図るための仕組みをつくる。</li> <li>● 山林の環境保全について、個人の山としてではなく“渋民全体の山”と考え大型重機で管理等、地域全体で改善を図るための仕組みをつくる。</li> <li>● 遊休農耕地の利活用検討 （例）ソーラーパネル等の設置</li> <li>● 食用米に固執しない生産物（飼料米、野菜、小麦、果樹等）の栽培を進める（田10aあたり収入の多いものに変更する）</li> <li>● 担い手への農地集積（地域農業マスタープラン等の活用など行政との協力）</li> <li>● 渋民農村青年部を発足させ、「どこで人手が必要か」等の情報を共有・発信する仕組みを作り、地域内外で共有する。</li> <li>● 有害鳥獣の駆除対策検討</li> <li>● 帰化植物の根絶対策検討と環境保全</li> </ul>	<p>農業従事者 農家組合 中山間組織 多面的支払組織 JAいわて平泉 渋民農村青年部 産直組合 森林組合 土地改良区 各自治会 等</p>
<p><b>◆地域の活力不足</b></p> <p>(ア) 地域内に若者が興味を持ちそうな職場が少なく、あっても賃金が安いと思うように働けない。</p> <p>(イ) 商店街や観光地がなく活気がない。</p> <p>(ウ) 渋民地域独自の特産品が少ない。</p> <p>(エ) 住民が参加したいと思うイベントが不足しており出会いの場が少ない。</p>	<p><b>◆地場産業発展と新たな産業の開拓</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農業の担い手不足と関連させて、協働で働く場を作り、収入が上がるための仕組みを検討</li> <li>● 渋民版（結いっこ）ハローワークの開設検討</li> <li>● 国道343号線開通に伴い、大型産直（道の駅）の検討を行い、同時に農産物販売促進のルート作り（生産～加工～販売）地産地消化を図る。 （例）渋民ブランドの開発検討（中学生からもアイデアあり）</li> </ul>	<p>産直運営経験者 食生活改善推進員 農業従事者 農家組合 渋民農村青年部 各自治会 等</p> <p>行政へ要望</p> <p>各自治会 地域青年層</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大東工業団地への誘致活動拡大を図る</li> <li>◆旧渋民小学校等施設の有効活用</li> <li>● 市民公園整備の検討</li> <li>● 旧小学校体育館で渋民全戸参加型イベント（イルミネーション等）開催の検討</li> <li>● 法律を学べる大学（渋民キャンパス）誘致（中学生のアイデア）</li> <li>◆子供の遊び場所設置</li> <li>● 消防署、保健センター近くへの公園設置検討</li> </ul>	<p>子ども会育成会 老人クラブ 芦東山先生顕彰会 芦東山記念館 等</p>
<p>◆その他 (ア) 水質の保全 (イ) 井戸水を使用している</p>	<p>◆その他への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 清流化を図るため浄化槽の普及に取り組む</li> <li>● 全世帯市水道にするための検討</li> <li>● ヘソを中心に行政の集約化（遊休施設の活用等）</li> </ul>	<p>行政へ要望</p>



(産業・振興班ワークショップ)

② **教育・文化** — 世代をこえて教え伝え学び合う里 「しぶたみ」

現状・課題	考えられる解決策とその方向性	実施主体
<p><b>◆子どもと地域の関わり不足</b></p> <p>(ア) 小学校統合により、地域の人々が子どもたちの学習活動に接する機会が減った。子どもがいない世帯は学校とのつながりが薄れてきた。</p> <p>(イ) 地域行事への不参加、地域で学ぶ機会の減少が目立ち世代間交流の場が不足。</p> <p>(ウ) 子どもたちが外で遊ばない、歩く姿を見かけない。</p> <p>(エ) 市民センターの遊具回りの環境整備不足があり危険。また利用者が少ない。</p>	<p><b>◆旧渋民小学校等施設の有効活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 出前授業や総合学習に合わせて地域施設を貸出し、子どもたちの成長を共にみられる環境の場づくりを検討 (例) 地域版祖父母参観日の検討実施。(地域住民も参加できる仕組みだと尚良い)</li> <li>● 学童クラブの設置検討</li> <li>● 土曜塾の開催検討 (例) 教職員退職者協力要請</li> <li>● 学校とスケジュール調整を行い地域行事への参加を促す</li> <li>● 各地区で子どもを巻き込んだ活動の検討 (例) 季節行事、産直見学(地場産業学ぶ)、地域間での宿泊体験、砂鉄川付近に子どもたちが遊べるエリア整備 等</li> <li>● 保健センター付近に農村公園を移動</li> </ul>	<p>教職員退職者 学校評議員 各自治会 子ども会育成会 老人クラブ 等</p>
<p><b>◆親子の触れ合い時間の減少</b></p> <p>(ア) 少子化の影響で子どもが少ない中、スポ少や子ども会、学校行事、PTA活動と親も子も忙しいのが現状。</p>	<p><b>◆親子ふれあいday 設置検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 月に一度土日の一方を完全休養日に設定し親子で過ごす“ふれあいday”の検討 (例) 一緒にスポーツ、季節の料理作り、農業体験、収穫体験、伊勢神楽への参加 等</li> </ul>	<p>子ども会育成会 保育園父母の会 大東小中学校 民生委員 渋民伊勢神楽保存会 等</p>
<p><b>◆若者たちの交流の場不足</b></p> <p>(ア) 若者(独身者)の交流の場がない。</p> <p>(イ) 若者が自発的に活動する場がない。</p> <p>(ウ) 交流を深める飲食店がない</p>	<p><b>◆旧渋民小学校等施設の有効活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 旧渋民小学校の1室を若者たちの交流の場にあて、若者たちが主体の企画・運営実施を計画する。昔の青年層はそれを応援する。 (例) 合コン、新年会、飲食の場 等</li> <li>● 自治会同士の交流会を企画する</li> </ul>	<p>地域の青年層 (20代~40代) 地域の独身者 各自治会</p>
<p><b>◆伝承活動の衰退</b></p> <p>(ア) 伊勢神楽保存会練習日不足</p> <p>(イ) 各種団体活動周知の場不足</p> <p>(ウ) 高齢者と子どもたちの交流不足</p> <p>(エ) 各家庭の古来からの伝承行事衰退(お正月、小正月、お盆行事等)</p>	<p><b>◆各種団体の活動充実と交流</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもたちへ技・伝統を教え交流を図る (例) 放課後を利用した継承活動</li> <li>● 各種団体の交流の場検討</li> </ul> <p><b>◆家庭内での継承活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● できる行事は取り組む、継続する。</li> </ul>	<p>各種団体</p> <p>各家庭 老人クラブ</p>

<p>◆自然や歴史文化遺産の活用不足</p> <p>(ア) 教育文化の核となる場がない。</p> <p>(イ) 芦東山記念館利活用の不足（地元住民）</p> <p>(ウ) 地元文化遺産等理解・勉強不足のため伝承衰退</p> <p>(エ) 文化祭への積極的参加が少ない。</p>	<p>◆旧渋民小学校の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 旧渋民小体育館・グラウンドを利活用し交流の場、核となる場として検討 (例) 市民センター移設</li> </ul> <p>◆芦東山記念館利活用の増進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 芦東山記念館利活用の工夫を図る 館内にお土産販売コーナー、カフェコーナー等の設置検討（中学生のアイデア）</li> </ul> <p>◆学びの環境確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 郷土の歴史を学ぶ機会を企画実施する。 (例) 各自治会で地域の勉強会を開催する。（芦東山記念館の草刈り＋勉強会）</li> <li>● 地元の史跡、文化遺産を学ぶ機会の検討 (例) 子どもから高齢者まで参加できる地域遠足の実施「地域の良さ再発見！渋民8景を見つけよう!」、スタンプラリー、地域絵地図の作成等</li> </ul> <p>◆自然環境の利活用と交流の機会創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 恵まれた自然環境を利用し、地域外の方々の参加できるイベントの開催検討 ツールド渋民（自転車レース）、サイクリング等 (中学生のアイデア)</li> </ul> <p>◆文化祭をもっとみんなで盛り上げる</p>	<p>各種団体 芦東山先生顕彰会 各自治会 学識経験者 教職員退職者 体育協会 渋民婦人会 等</p>
<p>◆その他</p> <p>(ア) Uターンが少ない。</p> <p>(イ) 役員の担い手がない。</p> <p>(ウ) 文化生活の習慣の変化</p>	<p>◆その他への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 故郷に帰ってきてもらうための対策検討</li> <li>● 地元の魅力（発見・創造）を伝える手段（情報発信手段等）を検討する。</li> <li>● 役員の仕事を分担する。</li> <li>● 昔ながらの生活体験、風景環境への取り組み（渋民バージョンの方言集の発刊）</li> </ul>	<p>各自治会 各種団体</p>



(教育・文化班ワークショップ)

③ 福祉・安全 — みんなで支え合う潤いの里「しぶたみ」

現状・課題	考えられる解決策とその方向性	実施主体
<p><b>◆高齢者や障がい者の交通の現状</b></p> <p>(ア) 主要道に歩道がない箇所があり危険である。</p> <p>(イ) バス停まで遠い。</p> <p>(ウ) ラクーターの運転者が増加</p>	<p><b>◆交通弱者への支援強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国道343号線開通に伴い、交通安全に対する諸問題を関係団体で協議する。</li> <li>● フリーバス路線を細かく見直し (例) 地域で見直しを行い市へ陳情する。</li> <li>● 渋民地域内で統一した支援対策の検討</li> <li>● ラクーター運転講習会の実施検討</li> </ul>	<p>民生委員 各自治会 老人クラブ 交通安全協会渋民分会 交通安全母の会 等</p>
<p><b>◆高齢者や障がい者の福祉施設の現状</b></p> <p>(ア) 福祉施設や運動施設が少ない。</p> <p>(イ) 施設入所手続きが難しい。</p>	<p><b>◆介護支援施設の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 入所対象者に応じた施設増設の検討</li> <li>● 施設入所に関する事前手続きの簡易化を行政へ要望</li> </ul> <p><b>◆地域施設の見直し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会館施設等を高齢者や障がい者にも使用しやすいように改善を検討する。 (例) 会議テーブル、トイレ</li> </ul>	<p>行政 各自治会 社会福祉協議会</p>
<p><b>◆高齢者をとりまく現状</b></p> <p>(ア) 高齢者世帯が増え、一人暮らしも増えてきている。</p> <p>(イ) 冬場の雪かき等季節に応じた作業や生活に支障が出ている。</p> <p>(ウ) 一人暮らしは会話がなく本当に寂しい。</p> <p>(エ) 高齢者の支援要請がしにくい。</p> <p>(オ) 近所付き合いの希薄化</p> <p>(カ) 自宅介護者家族への支援不足</p>	<p><b>◆介護支援の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「道の駅」に診療所、介護施設、店舗、宿泊(温泉)等の複合的施設を併設するよう検討要望</li> <li>● 介護度がついてない人も自立した生活ができるような支援施設、高齢者集合住宅の検討</li> <li>● 高齢だが自分のことができる人たちの集まれる集会施設設置検討</li> </ul> <p><b>◆地域の家族的交流の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ケアマネージャーの活用</li> <li>● 傾聴活動の普及活動推進</li> <li>● 隣近所のお茶のみ会復活</li> </ul> <p><b>◆老人世帯への支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自治会単位でのマニュアル作成 (例) 高齢かつ地域の役割分担が難しいと判断した方には相談できる環境を作る、雪かきボランティアをつくる、近隣等の協働と自治会、中山間等の事業検討、おせっかい隣人を増やす等</li> <li>● 自治会での一人暮らし世帯の把握と支援 (例) 雪かき担当者、夏の草刈り(草取り) 買い物ツアー 等</li> </ul>	<p>民生委員 各自治会 老人クラブ 交通安全協会渋民分会 交通安全母の会 社会福祉協議会 ひまわりの会 JA 女性部 等</p>

<p>◆<b>児童福祉の現状</b></p> <p>(ア) 放課後に保護者不在の児童がいる。</p>	<p>◆<b>児童支援施設の設置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 放課後児童クラブの開設を検討 (例) 旧渋民小学校一室を利用し、放課後等の児童生徒（保護者不在児童含む）を地域全体で育てる環境の仕組みを検討する。</li> </ul>	<p>民生委員 各自治会 老人クラブ 交通安全協会渋民分会 交通安全母の会等</p>
<p>◆<b>地域防災の充実</b></p> <p>(ア) 人口減少ゆえか、交流不足か、消防団員の担い手が不足している。</p>	<p>◆<b>自主防災組織の研修交流等の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自治会間の交流、横のつながり強化</li> </ul> <p>◆<b>消防団員不足解消</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他地域事例を基にその取り組みを渋民地域として増員の工夫</li> </ul>	<p>消防団 各自治会</p>
<p>◆<b>各年代の交流の場不足</b></p> <p>(ア) 年代を問わず集える場所や環境が少ない。</p>	<p>◆<b>道の駅を中心とした渋民地域づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● すべての住民が安心して交流、集える環境の場確保を検討 (例) ミニスポーツ、世代を越えた誰もが参加楽しめる行事を考える、外出意欲を促す、集まってお茶を飲んだりおしゃべりをしたり、趣味を楽しんだりするホットな場所 等</li> </ul>	<p>各種団体 各自治会 体育協会 等</p>
<p>◆<b>その他</b></p> <p>(ア) 行政から届く文書は、専門用語が多く、送付されてくる書類の理解に苦しむ。 また、通知文書の文字が小さく、見えにくい。</p>	<p>◆<b>やさしい行政文章</b></p> <p>(例) 大きな文字で明確な伝達文で周知することを関係機関に要請する、分かりやすい文章に直す、文字を大きく、電話対応する、行政文書は言葉で話した方が理解しやすいので窓口を設ける 等</p>	<p>行政</p>



(福祉・安全班ワークショップ)

## 5 計画の推進

この計画は、渋民地域の将来像の実現に向けて分野別の目標を定め、その課題と解決策の方向を体系的に整理し明らかにしたものです。

具体的な事業展開にあたっては、行政や各自治会やこの会を構成する団体等とも緊密な連携をとり、適切な役割分担をしながら取り組んでいくものとします。

また、この計画は、渋民地域のみんが情報を共有し、渋民地域に住むみんな一人ひとりの主体的な参加と協力により推進するものとします。



渋民振興会主催講演会 平成 26 年 11 月 29 日  
「明日に向かって」～めげない 逃げない くじけない～  
(気仙沼市 愛宕山地福寺 住職 片山秀光和尚)

計画策定までの経過

期 日	事 業 内 容
H24.6.30	渋民振興会（仮称）設立に伴う会議
7.23	渋民振興会（仮称）設立準備委員会議
8.29	渋民振興会設立総会
9.5	一関市へ地域協働体設立届出
10.10	第 1 回渋民振興会理事会
10.23	渋民振興会臨時総会
11.29	第 1 回検討委員会
	渋民小学校閉校後の利活用について
	アンケート等の実施について
12.11	第 2 回検討委員会
	アンケート等の内容について
12.14～ 25	渋民小学校跡地利活用のアンケート実施
H25.1.10	アンケート調査結果取りまとめ
1.18	第 3 回検討委員会
1.30	第 4 回検討委員会
	検討委員長による利活用の報告
2.19	第 2 回渋民振興会理事会
	検討委員会報告等について
5.21	第 3 回渋民振興会理事会
6.1	平成 25 年度渋民振興会総会
8.28	事業計画推進懇談会（各行政区長・自治会長）
10.25	振興会移動研修（浄法寺町門崎地区）
10.28	「住みよいまちづくり」アンケート実施
H26.2.19	第 1 回渋民振興会理事会
	アンケート取りまとめ結果報告



5.2	第2回渋民振興会理事会
6.1	平成26年度渋民振興会総会
10.21	振興会移動研修（綾織地区センター）
11.29	一関市地域協働体支援事業
	「明日に向かって」講演会開催（地福寺住職片山秀光和尚）
	震災記録写真展
H27.1.25	第1回渋民振興会理事会
5.16	第2回渋民振興会理事会
5.24	平成27年度渋民振興会総会
10.16	行政区長・自治会長によるワークショップ
	～渋民の良いところ、課題と思うこと～
10.23	「地域づくり計画」策定会議（33名参加） ～渋民地域の10年後の姿は？～
10.28	振興会移動研修（巖美研修センター）
11.6	「地域づくり計画」策定会議（27名参加）
	～渋民地域の課題などについて～
11.20	「地域づくり計画」策定会議（30名参加）
	～課題に対する解決策・整理等について～
11.28	中学生・高校生によるワークショップ開催（8名参加）
	～もし私が市長になったら～
12.11	「地域づくり計画」策定会議（22名参加）
	～課題に対する解決策・まとめについて～
H28.2.13	「地域づくり計画」資料確認会議（ワークショップ参加者22名参加）
4.21	第1回渋民振興会理事会
4.28	平成28年度渋民振興会総会

## 渋民振興会実施アンケート結果（基礎資料）

問 5	あなたは、将来の渋民地区をどのような地域にしたいですか。 今から10年後をイメージしてお答えください。《上位3つまで選んでください》
--------	---

	分野	回答数	アンケート項目
1	教育・文化	89	子育てしやすく、子どもたちが明るく成長する、子育て重視の地域
2	教育・文化	54	若者による活気やにぎわいを創る、若者重視の地域
3	教育・文化	15	地域の歴史、文化を学び、守る、歴史文化伝承重視の地域
4	教育・文化	8	生涯学習、文化活動など生涯を通じた、学び重視の地域
5	産業・振興	46	自然が豊かで、うるおいのある生活環境を保つ、自然保全重視の地域
6	産業・振興	39	里山や田畑の美しい景観を守る、田園風景重視の地域
7	産業・振興	24	地域特産品開発や地域資源を生かした事業を行うなど、 地域ブランド化重視の地域
8	産業・振興	7	ごみの減量やリサイクル活動を積極的に取り組む、エコ活動重視の地域
9	福祉・安全	108	高齢者や障がい者が安心して暮らせる、福祉重視の地域
10	福祉・安全	71	交通安全や災害に強く、犯罪や事故のない、安心・安全重視の地域
11	福祉・安全	63	みんなで支え合う、地域コミュニティの活発な地域
12	福祉・安全	22	バス交通を地域で守るなど、生活関連重視の地域
13	福祉・安全	10	スポーツや健康づくりが盛んな、健康重視の地域
14	福祉・安全	10	他市町村の地域の人々との交流など、地域間交流重視の地域
15		6	その他

（平成25年10月28日実施）

## 中学生ワークショップ（参加型会議）まとめ

渋民振興会では、地域づくり計画の策定を進めていく中で、平成27年11月28日（土）に将来を担う地域の子どもたちからの意見も取り入れようと、中学生ワークショップを開催しました。

ワークショップでは、「もし市長になったら、こんな渋民地域にしたい！」をテーマに、2つの班（男子生徒チーム、女子生徒チーム）に分かれ各々が描く地域の将来像とともに活発な意見が出されました。

なお、計画に反映した中学生からの夢や希望は赤文字で表示しております。

### 男子チーム マニフェスト

- ① 地域の食材を使った地域ブランドの開発及び地域食材のみを使った料理開発
- ② 日本全国に向けてインターネットやテレビ放送などで地域の情報を発信する  
（いずれ海外進出を検討）
- ③ 地域をさらに活性化させるため「ツール・ド・渋民※」を開催する（※自転車レース）
- ④ 渋民に来てもらった人にさらに詳しく知ってもらうため渋民地域のコミックなどを作る

項 目	夢・希望	期待される効果
●渋民ブランドの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 砂鉄川の鉄を利用した製品開発</li> <li>○ 渋民独自の素材を利用した飲食店をつくる</li> <li>○ 山ぶどうワインの開発</li> <li>○ 木の実を使って染物やリース作りをする</li> <li>○ 地元企業との連携</li> <li>○ 独創的なアイデアで<u>渋民ブランドを開発</u></li> <li>○ 空いている土地を利用し放牧、牛を育てる</li> <li>○ 米を利用した食品（パン、ケーキ、酒、麺等）を開発する</li> <li>○ しめ縄作りを復活し製品化する</li> </ul>	<p>地域資源を利用しその価値を活かす地域に経済の潤いを生むことができる</p> <p>地域独自の製品開発で地域に収入を与える</p> <p>市内外にインパクトを与えて渋民地域を注目してもらう</p> <p>世代間交流を通し地域の伝統を継承する</p>
●渋民地域の強みを生かした工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 工場・産直などの職場体験</li> <li>○ 産直で種飛ばし大会、スリッパ飛ばし大会</li> <li>○ 渋民の良いところをマンガにする （芦東山先生、偉人、歴史、地理、伝統等）</li> <li>○ ご当地キャラを作る</li> <li>○ 地域の特徴を生かした宿泊施設</li> </ul>	<p>既存施設の更なる利用増加が見込まれる</p> <p>若い人にも興味を持ってもらえる</p> <p>長閑な自然を活かす</p>
●イベントと情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>全渋民エリアを利用したサバイバルゲームや自転車のレース大会「ツール・ド・渋民」</u></li> <li>○ インターネットを使って人が集まるイベントを行い情報発信（YouTube等）したい</li> </ul>	<p>地域に人を呼び込み、活性と潤いを創出する</p> <p>Uターン・Iターンへの期待</p>

## 芦東山先生と共に歩むまち～We Love Touzan～

項 目	夢・希望	期待される効果
●気軽に集まれる場所 と既存施設の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>芦東山記念館をもっと大きくし、お土産コーナーやカフェコーナーをつくる</u></li> <li>○ 芦東山先生のゆるキャラ“とうざんくん”“とくりん”を認定マスコット化し、東山Tシャツ等のグッズ、芦東山先生についてまとめた本、漫画を作り販売する</li> <li>○ 学校の授業等で学んだ子どもを芦東山記念館の「子ども学芸員」にする</li> <li>○ 砂鉄川で釣りをする人達のために釣り具屋</li> </ul>	<p>地域に人を呼び込み地域内外の人口交流が生まれる</p> <p>既存施設の更なる利用増加が見込まれる</p> <p>地域の担い手不足の改善を図ることができる</p> <p>児童生徒の学びを活かすことができる</p>
●特産品とブランド化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ りんご、山ぶどうの活用（ワイン、染め物）</li> <li>○ 室蓬譲水のミネラルウォーター（9区に湧水がある）をブランド化し販売</li> <li>○ 砂鉄川の砂鉄でグッズ製作</li> </ul>	<p>渋民地域のPRとなり地域に経済の潤いが生まれる</p>
●旧渋民小学校の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 勉強会、上級生が下級生に教える無料塾（例）寺子屋</li> <li>○ <u>芦東山先生にちなんで法律を学べる大学（渋民キャンパス）</u></li> <li>○ 部活等の合宿場としての施設貸し出し</li> </ul>	<p>児童生徒の学びを活かすことができる</p>
●景観づくりと情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 季節ごとの楽しみ方を工夫し、きれいな風景が撮れる地域としてPR。インターネット等で情報発信</li> <li>（例）春は砂鉄川沿いの桜、夏は自然の緑、秋は紅葉、冬は雪とイルミネーション</li> </ul>	<p>地域環境美化活動への認識意欲が高まる</p> <p>市内外からの人口交流が見込まれる</p>
●安心・安全に暮らせる地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交通の便をよくする</li> <li>（例）バスの便数を増やす、待合室等の充実</li> <li>○ 道路等の環境整備</li> <li>（例）歩道・水路・ガードレールの整備、よこや橋の整備、除雪、街灯を増やす等</li> </ul>	<p>高齢者や小さな子どももより安全に暮らせる</p>



## 澁民振興会 会則

### 〔目的〕

第1条 この会は、澁民地区内における教育文化並びに産業の振興、生活環境、公共施設等の整備計画を住民参加のもとに推進することにより、地区住民生活の向上を図ることを目的とする。

### 〔名称〕

第2条 この会の名称は、澁民振興会〔以下、「振興会」という。〕とする。

### 〔事務所〕

第3条 事務所は、会長の指定する場所に置く。

### 〔事業〕

第4条 振興会は、目的遂行のため次の事業に取り組むものとする。

- ① 協働のまちづくりの推進に関する事。
- ② 保健、福祉、医療、文教施設等の環境整備事業の推進に関する事。
- ③ 安全で災害のないまちづくりの推進に関する事。
- ④ 澁民地区内の各種行事の開催に関する事。
- ⑤ その他必要な事項

### 〔構成員〕

第5条 澁民地区民をもって構成する。

### 〔役員〕

第6条 次の役員を置く。

会長 1名、副会長 2名、理事（次に掲げる①②の団体の長または各種役職者及び③とする。）若干名、監事 2名とする。尚、会長は理事会に諮り、若干名の顧問を委嘱することができる。

#### ①各種団体

- イ 行政区長 5名
- ロ 自治会長 5名
- ハ 各自治会会員1名（但し、自治会長並びに二からネまでの者を除く。）
- ニ 澁民婦人会長
- ホ 澁民老人クラブ連合会長
- ヘ 澁民地区社会福祉活動推進協議会長
- ト 澁民体育協会長
- チ 澁民保育園父母の会代表の2名（内、1人は女性）
- リ 小学校PTA 澁民地区の代表 2名（内、1人は女性）
- ヌ 中学校PTA 澁民地区の代表 2名（内、1人は女性）
- ル 民生委員・児童委員
- ヲ 東磐井地区交通安全協会澁民分会長
- ワ 澁民地区交通安全母の会長
- カ 大東芸術文化協会澁民支部長
- コ 澁民伊勢神楽保存会長
- ク 澁民各地区農家組合長 5名

- シ JA いわて平泉女性部大東中央支部渋民支部長
- ソ 芦東山先生顕彰会長
- ツ 渋民在住の一関市農業委員
- ネ いわて平泉農業協同組合 理事
- ナ 一関消防団大東地域第3分団第5部長
- ② 渋民在住の一関市議会議員
- ③ 渋民在住の学識経験者 若干名

(2) 会長、副会長、理事、監事は、総会において選出するものとする。

(3) 会員資格を失った場合は、本会役員の職を失うものとする。

#### 〔役員の仕事〕

第7条 会長は振興会を代表し、その会を統括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代理する。

(3) 理事は、会長、副会長とともに、事業の推進に当たるものとする。

(4) 監事は、会計を監査する。

#### 〔任期〕

第8条 役員、顧問の任期は、いずれも2年とする。ただし、再任は妨げないものとする。又、欠員により就任した場合は、前任者の残任期間とする。

#### 〔事務局〕

第9条 事務局を置く。

(2) 会長は、事務局長および事務局員（若干名）を任命する。

(3) 事務局長は、事務を統括する。

#### 〔会議〕

第10条 会議は、総会および理事会とする。

(2) 総会は地区民をもって構成し、会長が招集する。

(3) 総会の議長は、総会において選任する。

(4) 理事会は会長、副会長、理事、監事をもって構成し、会長が招集して議長となる。

(5) 会議の議事は、出席者の過半数以上の賛成で決し、可否同数の場合は議長が決する。

(6) 次の事項は、総会の議決を経なければならない。

イ 毎事業年度の事業計画および予算

ロ 毎事業年度の事業報告および収支決算

ハ 会則の変更

ニ 解散

#### 〔会計〕

第11条 会計は、渋民地区民の会費（各自治会負担）、寄付金、補助金等を持って充てる。

(2) 会費の額は、総会において決定する。

#### 〔会計年度〕

第12条 会計年度は4月1日から翌年の3月31日までとする。ただし、初年度は設立日から翌年の3月31日までとする。

#### 〔付則〕

この会則は平成24年8月29日から施行する。